

海フェスタにいがたの機会を捉えて ～海運の認知度向上に向けての活動～

当協会は、「海と日本プロジェクト」の一環として、会員会社をはじめ、関係団体と連携し、「船ってサイコ～」と題した海事施設の見学会等を実施しており、海運の重要性を一般の方々に広く認識いただくべく広報活動に力をいれております。

今般、7月14日(土)～7月29日(日)の16日間で新潟日報メディアシップにおいて開催された海フェスタにいがた「海の総合展」の機会を捉え、当協会は海技振興センターおよび日本水先人会連合会等が実施する操船シミュレータ体験ブースと連携し、海運の重要性を伝えるブースを出展しました。参加者は操船体験後



などに、当協会のブースにて、その船が運ぶ貨物や航路等を見ながら、私たちの生活には船が欠かせないことを知ることができました。



また、7月16日(祝)の「海の日」には、同会場の「みなと広場ステージ」にて「私たちの生活や産業を支える『海運』」と題したセミナーを開催しました。ここでは、総合展のテーマにある「海とつながっている私たちの暮らし」に沿って、船は欠かすことのできないこと、船には様々な種類があり輸送する貨物によって使い分けられていること、それらを動かす船員の魅力などとともに、2020年以降に強化される環境規制等にも触れ、海運について、その役割と環境保全への取り組みをわかりやすく説明しました。

さらに、7月27日(金)には日本海エル・エヌ・ジーおよび海フェスタにいがた実行委員会の協力を得て、LNG基地の見学会を開催し、親子連れ約40名が参加しました。構内では、8基あるLNG貯蔵タンクやローリー出荷設備、海

外から LNG が運ばれてくる船の発着場（棧橋）などを見学しました。また、サッカーボールとゴルフボールを題材に、LNG を輸送する際の工夫（天然ガス（気体）をマイナス 162 度に冷却すると、体積が 600 分の 1 の LNG（液体）に変化するため、LNG にすることで大量輸送が可能）や、LNG は全長約 300m の LNG 船によって海外から輸入されていることなどを学びました。参加者は、普段見ることのできない基地内部などに興味津々の様子であるとともに、「マイナス 162 度に冷やして運んでいることに驚いた」「船の構造はどうなっているのか」など LNG 船に関する感想や質問も多く寄せられました。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。

以上

